「このような制度があります」病室へ出向き説明する医療ソーシャルワーカー

近年、多様化する疾病や障がいのある人々の特性を理解し、支援する「ソーシャルワーカー（社会福祉士）」のニーズが高まっている。医療機関で活躍するソーシャルワーカーは「医療ソーシャルワーカー（MSW:Medical Social Worker）」と呼ばれ、患者が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の心理的・社会的・経済的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る専門職である。人生の最期まで住み慣れた地域で暮らす「地域包括ケアシステム構想」が推進される中で、患者と地域、病院の架け橋として、社会福祉士の国家資格を持った医療ソーシャルワーカーへの期待は年々高まっており、活躍の場も広がっている。

医療と福祉の融合を掲げ、日本でいち早く「医療福祉学科」を開設した川崎医療福祉大学でソーシャルワーカーを育成する竹中麻由美・医療福祉学科准教授に、現代の医療ソーシャルワーカーの役割や大学における人材育成について聞いた。また、川崎医療福祉大学の卒業生で川崎医科大学総合医療センターに医療ソーシャルワーカーとして勤務する鈴木智恵さんには、医療現場における支援・援助の現状について聞いた。

医療現場に求められる「医療ソーシャルワーカー」

川崎医療福祉大学
医療福祉学科　副学科長
竹中　麻由美 准教授

関西学院大学大学院修士課程修了。帝塚山病院（大阪市阿倍野区）医療ソーシャルワーカー、居宅介護支援事業所「ケアプランサービス帝塚山」管理者・介護支援専門員（兼務）を経て、2001年川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科現職。社会福祉士。

高まるニーズ

―医療現場では、社会福祉士の国家資格を持った医療ソーシャルワーカーへの期待が高まっていると聞きました。どのような背景があるのでしょうか。

日本は超高齢社会となり、医療や介護などのさまざまな支援を必要とする高齢者が増加し、核家族化によって単独世帯、夫婦のみ世帯、夫婦ともに65歳以上の世帯が増えています。患者さんや家族を取り巻く社会が変化する一方で、医療技術の発展に伴い、治療を受けながら仕事を続けたり、在宅で高度な医療を受けながら生活することが可能になっています。このような時代の中で「患者本位の医療」「患者の生活の質」を重視する考え方が広まっていることが、医療ソーシャルワーカーの存在が重要視される要因でしょう。

医療ソーシャルワーカーのニーズが高まっている例として、診療報酬の「入退院支援加算」の算定要件では、各病棟に社会福祉士の国家資格を持った医療ソーシャルワーカーを配置することが定められました。患者さんや家族が自分らしく安心して生活していくために、医療ソーシャルワーカーの存在や仕事内容が多くの人に理解されることが必要です。

医療費の助成制度

―入院や通院などによる治療には、経済的な不安が伴います。

病気になると、病気そのものへの不安はもとより、医療費や生活費などの経済的不安、また仕事や介護の問題など、生活へさまざまな影響が生じます。医療ソーシャルワーカーは、入院、通院、そして在宅医療の中で生じる生活問題に対し、社会福祉の専門的な知識や技術を用いて援助します。例えば、医療費の負担に対しては高額療養費制度や公費負担制度について説明し、また仕事を一定期間以上休み給与が支給されない場合などは、傷病手当を受け取るための条件や手続きについても説明します。このように、患者さんや家族が、社会保障制度や社会福祉サービスなどの仕組みを活用できるよう提案します。

納得できる医療

―個人の価値観や生活様式が多様化する中、一人一人の生き方をサポートしていくには、病気の特徴や治療内容に納得していただくことが大切です。

突然入院するように言われれば、誰しも混乱し不安を感じます。その際に主治医から病状や治療方針に関する説明を受け、その場では理解できたと思っていても、時間がたつにつれ悩んだり迷ったりするケースは珍しくありません。医療ソーシャルワーカーは、このような患者さんや家族の思いに耳を傾け、意向や生活背景などの情報を整理したうえで主治医と共有し、改めて説明の機会を設けます。患者さんや家族と医療をつなぐことによって、患者さんや家族が納得できる医療を実現します。

多職種協働のコーディネート

―質の高い医療を提供するために、医療ソーシャルワーカーはどのような役割を果たすのでしょうか。

病院は医師、看護師のみならず、多くの医療専門職が働く、いわゆる多職種協働の組織です。その中で、医療ソーシャルワーカーは唯一の社会福祉の専門職として、社会福祉の立場から、家族や社会の中で役割をもって生きる〝生活者〟として患者さんを捉え、医療が適切に提供されるよう働きかけます。また、治療方針に沿って他の専門職と連携しながら、医療が効果的・効率的に患者さんに届くよう支援します。こうした医療ソーシャルワーカーの働きは、チーム医療におけるコーディネーターの役割を果たしています。

その人らしさをサポート

―いざ退院となっても、その後の治療や生活に不安が生じることがあります。

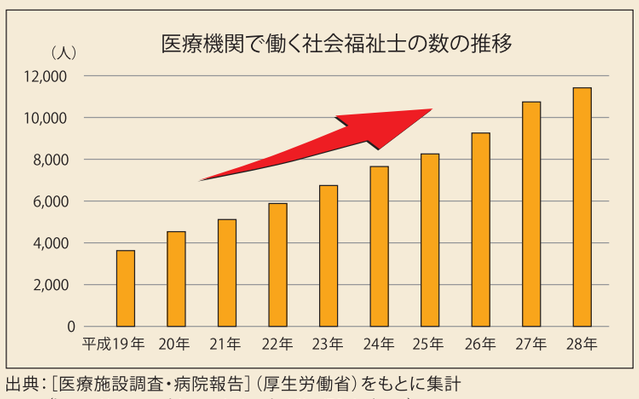
近年、医療ソーシャルワーカーに期待される役割の中でも、特に関心が寄せられている業務に退院援助があります。退院援助は、単に病院から自宅に戻ることを目的とするものではなく、病気や障がいのある状態で退院する場合もあり、個々の状況に応じた多様な対応が求められます。転院する場合もあれば、自宅へ帰る場合もあります。自宅の改修や福祉用具の導入が必要な場合もありますし、医療的処置が継続的に必要な患者さんには在宅医療や介護の準備も必要です。退院後の生活に備えるということは、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援することです。医療ソーシャルワーカーは、病気で心身の状態が変化しようとも〝その人らしさ〟が維持できることを重視し、退院を契機に「その人らしい、次なる生活（ステージ）」へつなげるお手伝いをします。

地域共生社会の実現

―地域共生社会の実現に向けて、医療ソーシャルワーカーはどのように関わるのでしょうか。

誰もが安心して助け合いながら暮らせる社会、いわゆる「地域共生社会」の実現に向けた取り組みは、医療や福祉においてもその重要性がうたわれています。「地域共生社会」は、高齢者や障がいのある方の暮らしを考えるだけでなく、あらゆる世代のすべての人が住みやすい地域をつくっていくことを意図しています。そして誰もが支援が必要な状況になり得ること、誰もが支援者になって助け合えることを地域住民全員が理解することが大切です。医療ソーシャルワーカーは、病気や障がいのある方々が、公的なサービスを活用して地域で暮らし続けることを支援するだけではありません。例えば、患者会の立ち上げや運営の支援、医療や福祉に関する知識や情報の発信など、地域住民や身近な資源を巻き込んで、地域共生社会を実現していきます。

患者さんと地域、病院の架け橋として活躍



出典：［医療施設調査・病院報告］（厚生労働省）をもとに集計
（https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/79-1a.html）

医療機関で働く社会福祉士 10年間で3倍に

厚生労働省のデータによると、医療機関で働く社会福祉士の数は平成19年の3626人から平成28年には1万907人へと、10年間で約3倍に増加しています（グラフ参照）。

医療現場で活躍するＭＳＷ

川崎医療福祉大学　医療福祉学科　2004年度卒業
川崎医科大学総合医療センター
医療ソーシャルワーカー副主任　鈴木　智恵 さん

―医療現場では、どのような支援や援助が行われていますか。

例えば、救急搬送された患者さんに医師が検査入院を勧めても、経済的な不安から入院を拒否される場合があります。その際に医療ソーシャルワーカーが、高額療養費制度などの医療費助成制度について説明することで、医療費の心配がなくなり、治療に前向きになられることがあります。また、今まで大きな病気をされたことがなかった方が手術入院し、退院後にどの医療機関にかかればよいのか分からないケースでは、病状や地域性に配慮して連携病院を紹介します。その他、患者さんの状態によっては、24時間対応の訪問看護の利用について説明し、退院前に担当の医師や看護師と話し合う機会を設けて、安心して退院を迎えられたケースもあります。

―医療ソーシャルワーカーとして勉強の毎日ですね。

医療ソーシャルワーカーの仕事は、「患者さんと安心をつなぐ」ことです。患者さんの病状や生活環境はさまざまですが、患者さんやそのご家族の経済的・心理的・社会的問題に関する相談に耳を傾け、解決するために援助し、社会復帰に向けて支援します。医療や介護についての広範囲な知識が必要で、各種制度についても精通しなければならないため、日々の勉強が欠かせません。これからも患者さんやご家族の笑顔のために力を尽くします。

「私たちの仕事は、『患者さんと安心をつなぐ』こと。患者さんの笑顔のために、毎日奮闘しています」と語る医療ソーシャルワーカーの鈴木さん

川崎医療福祉大学 医療福祉学科　実践的な「医療ソーシャルワーカーコース」

川崎医療福祉大学医療福祉学科では、地域共生社会の実現に実践的に取り組む医療ソーシャルワーカーを養成する「医療ソーシャルワーカーコース」を設けています。学生は３年次にさまざまな福祉分野で実習を経験し、４年次の医療機関での実習に向けて、医療保険などの制度に関する講義やソーシャルワーク面接の演習などの事前学習を行います。加えて、医療ソーシャルワーカーとして病院で働いている卒業生を講師に招き、病院に特化した実例を学びます。また、医療機関での実習プログラムは充実した内容で、確かな成果を上げることができます。このような実践力が身に付くカリキュラムに対する医療現場からの期待は大きく、本コースの卒業生は多くの医療機関で活躍しています。このことは、学生のモチベーション向上につながっています。

企画・制作／山陽新聞社広告本部

川崎医療福祉大学 医療福祉学科

第30回　社会福祉士国家試験［2017年度］合格者 48名
中四国・九州 福祉系大学（私立大学）合格者数　第１位

川崎医療福祉大学 医療福祉学科では、開設当初から医療に強い、実践力のある社会福祉士の育成に力を入れており、現在 663 名の卒業生が医療ソーシャルワーカーとして全国の医療機関で活躍しています。

川崎医療福祉大学
〒701-0193　岡山県倉敷市松島288　TEL.086-462-1111（代表）
かわらぬ思い、このときも
50th Anniversary
Kawasaki Gakuen
since1970